Frente

三重県男女共同参画センター
フレンテみえ
フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

vol.56
2013.12

冬！こころふるう！

誌上 Report!

全国女性会館協議会 第57回 全国大会 in 三重

「対談」大石 静 × 永井 愛

&

男女共同参画フォーラム ～みえの男女(ひと)2013～

「鼎談」桐竹里佳 × 吉田大樹 × 麓 幸子

Report! 秋のフレンテ・イベント

もっと知りたい！わたしのカラダ in 三重

平成25年度　女性に対する暴力防止セミナー
「子どもをDVの被害者にも 加害者にもしないために」

大人女子のためのkkossori夜話会
こっそり観たい映画会
「THEダイエット！」

～冬のフレンテみえ事業紹介～

こっそり観たい映画会　第2弾「母の道、娘の選択」
働き続けたい女性のためのパワーアップトレーニング
母子家庭等の女性のためのパソコン講座

スペシャル・エッセイ

ノンフィクション作家 **中村 安希**

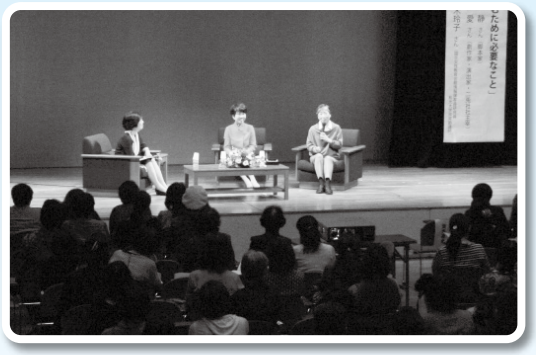
「世界を旅して、女性の生き方をみる」
～最終回～

特定非営利活動法人 全国女性会館協議会　第57回　全国大会 IN 三重

「今こそ、Personal is Political（パーソナル イズ ポリティカル）（ジブンの問題は社会の問題）～これからの私たちに必要な視点とアクション」

平成25年11月2日（土）開催

対談「自分が選んだ道を進むために必要なこと」



オープニングイベントでは、脚本家の大石静さん、劇作家・演出家・二兎社主宰の永井愛さんのお2人による夢の対談が実現しました！

一緒に劇団を旗揚げしたお2人の懐かしいエピソードから創作に必要な視点や裏話、そしてドラマや映画、演劇などの作品を通して様々な男女の生き方を描いてきたお２人から、今の社会を生きる人たちへのメッセージまで、たくさんのお話をいただきました。

その様子をお届けします！

既成の価値観をうたがってみる

大石：私は、永井愛さんと劇団を作り、その後テレビの仕事をするようになったのですが、書くことを生涯やっていきたいなと思っています。テレビドラマの場合は、この俳優さんを主役に考えてほしいと発注されることもありますし、制約も少なくないのですが、当たり前の常識や社会通念を疑ってみるまなざしというのは必ず出したいと思っています。主役に託さなくても、脇役でも何かちょっとはみ出した生き方をしているとか、視聴者がドキっとするような違った価値観を投げかけてみたいと思っています。当たり前に正しいと言われていることが本当に正しいのか。政治に対してもそうですけども、長いものに巻かれて流されていけば何とかなるという考えがいかに危険か、一人ひとりが自分で考え、何をどう選択するか、考え続けなければならないと思いますから。恋愛だってそうです。テレビドラマはエンタテインメントですが、既成の価値観を打ち破るような作品を書きたいと思っています。

男社会の演劇界で二兎社を旗揚げ

永井：昔の演劇界はリーダーっていうと男性だったんですよ。必ず男性リーダーのもとに劇団員が集まる。だから私たちも最初は何となく男性リーダーを求めていた。しかし、その男性リーダーが本当に指導力があるかっていうと、何とも情けない場合もあるじゃないですか。怒って灰皿を投げる姿に迫力があったとしても、それが指導力とは言えない。でも、そういうパワーをどこかで認める「男社会」の中で、おまえたちはダメだってずっと言われ続けていたんです。劇作も、最初はある男の人に頼んで書いてもらい、私たちはこの男性に頼ってやっていこうとしたんですよ。そしたら二作目で逃げられちゃった。これまでは男に頼るしかないと、一応そう思ってやってきたけど、自分たちでやるしかないんじゃないかという気持ちが芽生えた。かと言って、リーダーシップには自信がなく、ほかに劇団員を入れると仕切られてしまうような気がした。それで、劇団員は私たち２人だけ、あとはすべて客演にして、2人で主宰していくことにしたんです。そうしたら、恐れていた困難にも、あら、意外と立ち向かえるじゃないって。そうやって、一つずつ戦う中で、少しずつ下駄をはずして、ちゃんと地面に立ったんだと思います。

70代の恋愛と男女の賃金格差はつながっている

永井：日本はずっと国連から男性と女性の賃金の格差について是正勧告を受けていたり、男女平等の達成レベルが世界136カ国中105位だって聞くと、とってもがっかりしちゃうけど、この日本しか知らない女性は、日本は先進国だから、これが世界基準だと思っている。そういう日本女性の状況を当たり前のこととして受け入れてしまうと、かえって自分の可能性を狭めちゃう。それはもったいないなと思います。私は男女の恋愛に、男女の賃金格差が影響しないとは思わないんですよ。女性も男性と同じ働きをしたら同じ賃金を払って当たり前という意識が普通になって初めて、女性は若さやルックス以上のもの、その人間性を重視されるようになる。ロマンスグレーの男性に恋する女性がいるように、70代の白髪の女性に恋する男性が増えるかもしれない（笑）。格差是正は、基本的には制度を変えなきゃいけないけれど、女性が自らの可能性に対して自覚的になって、実力をいろんな場所で見せていく。そういう行動が周囲を説得すると思いますね。そのためにも女性が実力をたくわえて、魅力的な大人になるっていうことが、すごく大事かなと思います。

大石 静さん　Shizuka Oishi

脚本家。
劇団二兎社を経て、86年に「水曜日の恋人たち」でテレビドラマの脚本家としてデビュー。以来、オリジナル作品を中心に多数の脚本を執筆。97年NHK朝の連続TV小説「ふたりっ子」では向田邦子賞と橋田賞をダブル受賞、08年WOWOW「恋せども、愛せども」では芸術祭優秀賞を受賞。10年、大人の女性と17歳年下の男性との恋愛をリアルに描いた「セカンドバージン」(NHK)は、男女問わず多くの反響を呼んだ。その他の代表作として「功名が辻」(NHK)、「クレオパトラな女たち」(NTV)、「長男の嫁」(TBS)、「アフリカの夜」(CX)、「四つの嘘」(テレビ朝日)など。

永井 愛さん　Ai Nagai

劇作家・演出家。
81年、ともに卯年生まれの大石静と二人で二兎社を旗揚げ。91年の大石退団後は二兎社主宰。身辺や意識下に潜む問題をすくい上げ、現実の生活に直結したライブ感覚あふれる劇作 を続ける。海外でも注目を集め、『萩家の三姉妹』『片づけたい女たち』『こんにちは、母さん』など多くの作品が翻訳・リーディング上演されている。その他の主な作品に『こんばんは、父さん』『歌わせたい男たち』『ら抜きの殺意』など。紀伊國屋演劇賞個人賞・鶴屋南北戯曲賞・岸田國士戯曲賞・ 読売文学賞・朝日舞台芸術賞秋元松代賞などを受賞。

進行：青木玲子さん　（独）国立女性教育会館情報課客員研究員、和光大学非常勤講師

イベントメモ　「男女共同参画センター 防災・復興全国キャンペーン」って？

男女共同参画社会の形成の促進に寄与することを目的に全国の女性関連施設が加盟するネットワーク「特定非営利活動法人 全国女性会館協議会」の全国大会が、11月2～3日、三重県で初めて開催されました。

この大会は、会員相互の情報交換・意見交換と研究協議の機会を目的として年に１度行われています。例年、女性関連施設にとって最も関心のあるテーマを採りあげ、ホールイベントや分科会などを企画していますが、今年はフレンテみえ・三重県との共催で、フレンテの年間テーマでもある「Personal is Political（ジブンの問題は社会の問題）」を主題に、様々な企画を行いました。大変盛り上がった大会の様子をご紹介します！

作品制作の現場で

大石：私が脚本を担当したあるドラマの話ですが、私は主人公のヒロインが仕事を持つことで自立し、活き活きとしていく姿を、ドラマの最後に描きたいと思っていました。しかし放送されたものは、そのヒロインは仕事を捨て、漁村のような田舎町で好きな男と生きることを選ぶというものでした。実は私の最初の脚本では、ヒロインは仕事を貫いて輝かしく生き、都内でその男と暮らしていくというエンディングだったのですが、男性ディレクターは「それではラストシーンが絵になりにくい」と言う意見でした。ドラマというのは脚本家だけのものではなく、同じ重さで監督のものであり、役者のものでありますから、そこは撮影現場を仕切り、役者に演技をつけ、映像として完成品を作るディレクターの意見に従いました。
それがみんなで作るドラマの宿命でもありますが、放送後、なぜあのヒロインは仕事を捨てたのか？　という視聴者の反応は、多くありました。愛する人としあわせになれて本当によかったという反応も、多かったですが。・・。愛ちゃんは「あなたもっとつっぱりなさいよ」と言うと思うんですけど、作・演出の愛ちゃんと、脚本だけの私とは、またスタッフとのつき合い方も違うので・・・むずかしいですね。
永井：私も最終回を見て、何で海の傍で主婦業やってんだと思ってね。静が最初に言った方がずっといい。ずっと共感する。

参加者へのメッセージ

大石：「制度」というのは全ての人のチャレンジに応えられるよう、差別なく整備されていないとならないと思います。しかし、良き母、良き妻、良き仕事人でなければ、一人前ではないという世の中の空気に、逆に女の人が不自由になっているとも感じます。そんなにたくさんのことができなくても、ひとつを貫く人もいていいわけです。若い人たちは、母であり、妻であり、そして仕事を持った"すてきな女性"になるために精神の軸が崩れるほどに頑張っていますが、そうした既存の価値観を一回はずして、自由に、自身がどう生きたいかを考えてみた方がいいと思います。

永井：私は"個人の魅力"ということを最近すごく考えます。制度の不平等は、それを無くすように言論で訴えていくことが不可欠ですが、「誰もが生きやすい世の中をつくろうよ」とか、「女性の賃金が低いのはおかしい」とか、「不当解雇はおかしい」とか、そういうことを訴える言葉自体が今、意外と通らなくなっている。「正しいことは言えば通じる」という思い込みは、考え直さなきゃいけないなと思います。本当に心から思うことを伝えようとしたときに、どういう言い方をしたら相手のハートに届くのか。「正しさ」に安住しないで葛藤する中で、個人の魅力は磨かれ、人を惹きつける言葉が生まれるのではないでしょうか。そういういろいろな個人の魅力が、社会を変える原動力になっていくのだと思います。

青木：私たちは、「男女共同参画社会」を説明するとき、どのように説明するのか、言葉に迷い、すごく苦労してきました。正しい説明をしようと言葉にこだわりすぎたのではないでしょうか。今、お話を聞いていて、言葉のみではなく、演劇や音楽など伝える手法があったんだ、女性関連施設としてさまざまな手法を取り入れていくこともこれから考えていきたいと思いました。演劇や、ドラマ、音楽は、そんな想像力を豊かにしますね。
私たちは、センターで大勢の人々に出逢います。地域の拠点施設で働くということは、さまざまな生き方、そして人生に出逢って、豊かな想像力で、一人ひとりの人生をセンターにあたたかく迎え入れ、地域でともに暮らすことだと思います。そこから何かが生まれそうです。

この「対談」のほかにも、全国大会IN三重では様々な企画が行われました。

初日には、全国の女性関連施設が男女共同参画社会の実現に向けて行った優秀な事業企画を表彰する「第7回事業企画大賞」表彰・事例発表の後、内閣府、復興庁、文部科学省、全国女性会館協議会の担当者から「男女共同参画と防災・復興」についての取組や最新情報が報告されました。2日目には、事業企画、広報・情報発信、相談、マネジメントをテーマに4つの分科会を開催。また、この他にも全国からお越しの皆さまに三重県総合文化センターをご案内する館内ツアーや、センター内レストランでの情報交換会も実施しました。

2日間を通して、女性関連施設職員だけでなく一般参加者の方も含め約350名の皆さまにご参加いただき、各企画を通して様々な、そして大変実のある意見交換や情報交換、交流が行われました。この全国大会、来年は青森で開催の予定です！

☆さらに詳しいレポートはフレンテみえホームページで！（随時掲載予定）

男女共同参画フォーラム　～みえの男女（ひと）2013～
未来への提言＊働き方はワタシがつくる

平成25年11月3日（日）開催

「こんな働き方ができたら」
人々が抱えている事情や、望むライフスタイルは多様化しているのに、社会が追いついていないため、そう思いながら諦めている人は多いかもしれません。しかし、多様な働き方ができる制度や仕組み、環境が整うのを待っているだけでは、自分が望む働き方ができるのは、いつになるかわかりません。
そこで今回のフォーラムでは様々な視点から「働く」ことについて提言し、どうすれば自分が望む働き方、生き方ができるかを考えました。

鼎談「未来への提言＊働き方はワタシがつくる」

今回のフォーラム・メイン企画「鼎談」。
第一線で活躍されている皆さまから、それぞれの立場を通して感じる“働き方”とその未来について、様々な切り口でお話をいただきました。
その様子をリポートします！

【麓さん】日本は今、男女共同参画社会の実現へと大きく舵取りをする時代です。男女雇用機会均等法制定から四半世紀経ちましたが、女性の働き方として依然M字カーブは解消されず、管理職登用も進んでいません。国は2020年までに指導的立場に女性を30%にする目標を掲げていますが、今のままでは難しい状況です。
日経ウーマンという働く女性向けの雑誌創刊から、たくさんの働く女性を取材する中で「ずっと働きたいが子どもを預けることができない」「長時間労働で継続就業できない」と泣く泣く会社を辞める人が多いように思います。保育園数が足りない、両立支援が不十分など、働きたい女性を支援するインフラが整っていないのです。
長期雇用・年功序列の日本型雇用システムでは、長期雇用できないと力が発揮できないシステムになっています。そのシステムでは、女性は基幹的仕事から排除され女性が社会で活躍しづらい社会につながるのです。

【桐竹さん】日産自動車株式会社（以下、日産）は1999年にルノーとの業務提携を機に、ダイバーシティの取組に大きく舵を切りました。当時、日産は経営が危ぶまれる中、カルロス・ゴーンが最高執行責任者に就任し、大きく変わったのです。業務提携後、ルノーの方々と一緒に仕事をすることは大きなカルチャーショックでした。まったく仕事の進め方が違う中、いかにお互いの良いところをだし合うか、それがダイバーシティに本気で取り組むきっかけでした。以降、2年間で大きく抱えていた負債を通常に戻すことができたのです。
ファーストステップとして、ジェンダーダイバーシティを進めています。自動車業界は男性優位と見られることもありますが、男女両方の活躍が重要で、経営戦略のコアになっているのです。
お客様のニーズが多様化している中、企業がマーケットに対応できる多様性を持つことが必然となっています。女性の視点に着目するということは、女性のためだけでなく、多くの方の使いやすさや利便性につながると考えています。
ダイバーシティを考える時に重要なことは「共感力」。自分のフレーム自体を拡大し、まず相手との立ち位置の違いを理解し受け入れること。そこから同じ方向を向いていくことです。
本気でダイバーシティに取り組むことを経営層が継続して発信し、社員全員が、自ら学び、自らキャリアを築いて職場で活躍していくこと。これらを両輪で進めることで、さらにグローバルで活躍できる企業への発展を目指しています。

【吉田さん】私は労働関係雑誌の記者を経て、昨年の7月にNPO法人ファザーリングジャパン（以下、FJ）の代表に就任しました。記者時代の取材を通し、父親の子育てを考える上で、長時間労働や過労死の問題など、働き方の見直しを追ってきました。
FJは2007年に設立され「一人一人が父親であることを楽しもう」をミッションとして、男性の働き方を考え、社会を変えていくことを目標に、取組を進めています。
これまでは、家庭の中から男性は排除され、いないことを前提とされてきました。また、女性の社会進出と言われる一方、男性の社会進出とは言われません。仕事・家庭両方に男性も女性もいて、活躍する社会を目指したいと考えています。
FJではパパクォータ制度という男性の育児休業取得を割り当てる制度をつくることを国へ提言しています。現在、男性の育児休業取得率は

フォーラム「パネル展」

三重の女性史研究会は「土に生きる～三重の農業女性の夢を～」パネルを展示し、三重の農業女性にスポットをあてました。また、男女共同参画みえネットは「地域における意思決定の場への女性の参画～実践 三重の加速プラン」パネルを展示し、5市におけるモデル事業の取組を紹介しました。三重大学男女共同参画推進室は「三重大学の男女共同参画の推進」パネルを展示し、三重大におけるワークライフバランスの推進などについて紹介しました。情報コーナーでは、三重労働局雇用均等室が三重のワーキングウーマン事情をパネル展示しました。
その他、多目的ホール横ではフレンテみえ登録企業の取組を紹介しました。エントランス内では県内市町の男女共同参画の取組状況展示、三重の女性の働き方紹介のパネル展示、全国の女性施設などのチラシや情報誌を展示紹介しました。

フレンテメモ　三重県女性の働き方の特徴って？

1.89%しかありませんが、希望する人がきちんと取得できる社会を作ることが大事だと思います。また、育児休業の際の給付金として、現在の所得補償が5割ということで取得を躊躇する男性がいるので、給付金を増やせるよう、国へ政策提言していました。その取組が最近実り、来年度から67%に引き上げという動きができています。

【桐竹さん】私自身、自分なりの複数のロールモデルがいる、複数の先駆者がいる、ということは、幸運だと思っています。例えば子育てを楽しみながら仕事のキャリアも重ねている女性など、積極的に育児に参加している男性、そういった方の背中を近くで見ながら、自分のキャリアを考えることができます。
私は、母の背中から、女性も社会に貢献することが重要で、男性と一緒に社会も家庭も作っていくことを見せてくれたことに感謝しています。
これまでの働き方の中で、30代の時に、目の前の仕事の理論や背景をかなりの書籍を読んで勉強しました。それによって自分のぶれない軸ができ、自信につながったと思っています。目の前の仕事にきちんと向き合い、また、続けていくこともとても大事だと思います。

【吉田さん】「ワークライフバランス」を私は「仕事と人生の調和」だと考えます。仕事を含めて、自分の人生を自立的に考えていくことが大切だと思います。
男性も子育て期を通じて地域活動などの様々な活動に関わることが大事ではないでしょうか。その活動で自分の人生の幅が広がり、仕事へのフィードバックにもなるのです。
また、男性も女性も、自分の人生を主体的に納得して選択できる社会にしていくことが、これからは重要だと考えています。

【麓さん】これまで、何歳であっても自分の可能性を広げ、活躍している女性をたくさん取材してきました。
私は、自分の家事・育児の経験等、人生すべてがキャリアだと考えています。複数のキャリアの層を重ねて虹のように考えること。それをしっかり見つめて自分の可能性を信じて突き進むことが大切です。
働き方というのは、会社人間に生きるのではなく、この人生で成し遂げたいことは何かというビジョンをもち自分で作りあげていくことが大事なのだと思います。

若い世代の声も！
三重大学人文学部4年生の久野藍さん、2年生の原和弘さんのお二人にもご登壇いただきました！

【久野さん】どんな環境であっても常にライフ・キャリアプランを考えて、自分の人生を切り開いていくことが大事だと思いました。人生の岐路に立った時に、しっかり自分と向き合って突き進んでいきたいと思います。

【原さん】鼎談では、人はみんな違うこと、それを尊重し、理解し合うダイバーシティがとても大切だと思いました。海外で仕事をしたいと考えていますが、言葉も文化も違うので、多様性を大事にして働きたいと思います。

桐竹（きりたけ）　里佳（りか）さん
日産自動車株式会社
ダイバーシティディベロップメントオフィス室長

1993年に筑波大学 第一学群 社会学類を卒業後、(株)社会調査研究所（現 ㈱インテージ）に入社。主に国内大手消費財メーカーをクライアントとしたカスタマーリサーチ全般を担当する。2003年に日産自動車株式会社に転職し、市場情報室に所属。2006年からは、カスタマーインサイトスペシャリストとして、日産セレナ、エルグランド等のミニバンやティアナなどのセダンを検討されるお客様ニーズを分析、またブランド・マスコミュニケーション等のマーケティングリサーチも担当した。その後、欧州日産市場調査室臨時部長代理、組織開発部の主管を経て、2011年より現職にいたる。

吉田（よしだ）　大樹（ひろき）さん
NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事

1977年7月東京生まれ。埼玉県鴻巣市在住。2003年3月日本大学大学院法学研究科政治学専攻修了。2003年４月～12年6月「労働安全衛生広報」「労働基準広報」（労働調査会発行）記者。労働関係の専門誌記者として、ワーク・ライフ・バランスや産業保健（過重労働・メンタルヘルスなど）の問題を精力的に取材。働き方や生き方の変革を訴える。08年７月～FJ会員、10年7月～FJ理事を経て、12年７月より現職。12年4月より、内閣府「子ども・子育て会議」委員、及び厚労省「イクメンプロジェクト」推進委員会委員。3児（03、06、08年生まれ）のシングルパパ。

コーディネーター
麓（ふもと）　幸子（さちこ）さん
日経BPビズライフ局長、日経ウーマン発行人

1962年秋田県生まれ。1984年筑波大学卒業。同年、日経BP社入社。1988年『日経ウーマン』創刊に携わる。2006年日経ウーマン編集長。2012年ビズライフ局長に就任、日経ウーマン、日経ヘルスなど3媒体の発行人になる。筑波大学非常勤講師。法政大学大学院経営学研究科修士課程在籍。ダイバーシティマネジメント、女性活用、人的資源管理論などを研究する。経済産業省「ダイバーシティ経営企業100選」サポーター。『とくダネ！』コメンテーターなどメディア出演豊富。一男一女の母。著書に、長男の就活経験をもとにした『就活生の親が今、知っておくべきこと』(日経新聞出版社)などがある。

ワークショップ

今回は、県雇用経済部雇用対策課主催「男女が働きやすい職場づくり」、男女共同参画みえネット主催「地域における意思決定の場への女性の参画～実践　三重の加速プラン～徹底討論　やってみて言える新しい公共の可能性」、ひろみ会主催「男の料理教室が考える『食と健康』」の3つのワークショップを開催しました。

全国大会と同時開催ということで全国の拠点施設や関係機関からのご参加も多く、三重からの情報発信という意味でも有意義なワークショップとなりました。

東日本大震災女性支援販売および三重の物産

昨年度より引き続いての東日本大震災女性支援販売。今年は前回好評だった米や漬物に加え、「おのくん」などキュートなぬいぐるみや豆菓子、餅なども新たに販売して盛況のうちに終了しました。さらに、平治煎餅と相可高校調理クラブの菓子類、立神真珠養殖漁業協同組合女子部による真珠製品を販売しました。全国から集まった皆さんに三重県の物産を紹介する三重とても良い機会になりました。

また、予約制での相可高校のお弁当は大好評でした。（相可高校調理クラブはドラマ「高校生レストラン」でのモデルになりました）

三重県は「男は仕事、女は家庭」という考え方（固定的性別役割分担意識）に同感する人の割合が43.8%と全国の41.3%に比べて高い。また、結婚・出産後一時的にやめるが再就職する（中断再就業型）は58.7%あり、結婚・出産後も働き続ける（就業継続型）19.6%のじつに3倍。全国の就業継続型45.9%と比較すると、三重女性は結婚・出産を機に離職する割合が高いことがうかがえます。（2009年）

＊Event Report!＊

10月12日(土) 「もっと知りたい! わたしのカラダ in 三重」

ウィメンズセンター大阪と大塚製薬株式会社、公立大学法人三重県立看護大学との共催で、女性のこころとからだの健康を考える講座を開催しました。講演とセルフケア体験を合わせた講座でした。市立伊勢総合病院産婦人科部長の村松温美さんからは、女性のからだとホルモンとの上手な付き合い方を学びました。大塚製薬提供の腸内細菌検査体験では全国の結果の傾向などで盛り上がりました。講座の企画者の一人でもある、ウィメンズセンター大阪代表、高見陽子さんの軽妙なお話では笑みがこぼれたり、「私のカラダ」について深く考えさせられたり。それぞれの講演の時間、みなさん楽しんでいただけたようです。

セルフケア体験では、三重県立看護大学の助産学生によるツボマッサージや健康相談、ウィメンズセンター大阪スタッフによる絵本の読み聞かせ、講師のお二人と一緒に語り合う場や、サシェ作りブースなどを実施し、皆さんに自身のココロやカラダについて楽しみながら学んでいただく機会となりました。大塚製薬株式会社から提供された飲料・お菓子をとりながら談笑したり、参加者同士で語り合いをしたり、皆さん大満足の講座となりました。

11月23日(土・祝) 平成25年度 女性に対する暴力防止セミナー 「子どもをDVの被害者にも加害者にもしないために」

毎年、女性に対する暴力をなくす運動期間に開催している『女性に対する暴力防止セミナー』を、今年は桑名市で開催しました。

昨年度、フレンテみえで県内の高校生・大学生に行った大規模なデートDVに関するアンケート調査結果の報告と、NPO法人SEANの遠矢家永子さんの講演会の2本立てでした。未就学児から大学生まで、15,000人以上の子どもたちに授業をされてきた遠矢さんから、DVがこどもに与える影響やなぜDVが後を絶たないのか、ジェンダー意識と暴力の関係等について、分かりやすく解説がありました。

子ども向けのおもちゃカタログを見ても、女の子は家事・育児・おしゃれ関係、男の子は戦い・スポーツ・乗り物関係ばかりが掲載されていて子どもの頃から繰り返し刷り込まれる価値観があります。それが「女性性」の被害性と「男性性」の加害性につながっていることと共に、子どもたちが多く目にする実際の漫画やインターネットでは、女性が性的商品として扱われている現状や偏った恋愛観が数多くあることについてもお話いただきました。

参加者からは「自分の中に、男女に対する思い込みや決めつけがあることに気づいた」「小さい頃からの教育や、子育て一つ一つが大切だと分かった」などの意見が聞かれました。

10月4日(金) 大人女子のためのKkosori夜話会 こっそり観たい映画会「THEダイエット!」

秋の夜、自分自身を改めて見つめる、そんなきっかけになればと企画した今回の夜話会。関口祐加監督のドキュメンタリー映画「THEダイエット!」をお楽しみいただきました。

すべてをさらけだしてダイエットに挑む関口監督の姿に時々笑い声がおき、会場はリラックスした雰囲気となりました。映画観賞後、参加者の方からは「すっきりした気分になれた」「自分がどうありたいのかを考えさせられた」といった言葉が聞かれました。自分らしく、前向きに生きる監督から多くの方が元気をもらえたことと思います。

また「久しぶりに映画を観られて嬉しかった」という参加者の方もいらっしゃいました。日々の忙しさの中、自分の心を解放し、ほっと一息つく時間を持つ大切さも感じてもらえたのではないでしょうか。

関口監督から、参加者の皆様にメッセージをいただきました。

「『THEダイエット!』は自分の肉体を被写体に、裸にしたのは、実は心の方!Enjoy!　関口祐加」

こちらも
どうぞ!

大人の女性が自分を解放するためのイベント「Kkosori夜話会」第3弾!!

こっそり観たい映画会『母の道、娘の選択』

「そうぶんシネマスクエア２０１２」にて上映の映画『311：ここに生きる-In The Moment-』我謝京子監督の作品。女性の働き方・生き方を探るドキュメンタリー映画です。

― 我謝監督が作品を作ろうと思った理由が３つ ―

ひとつは、出産し復職したときに孤立感を感じた体験から、育児・仕事の両立で悩んでいる人へメッセージを伝えたい！

二つ目は、ニューヨークに生活の拠点を移した我謝監督。なぜ、日本を出なければならなかったのか？ニューヨークに住む日本女性たちにインタビューすることで探っていきます。

そして三つ目は“日本女性はおとなしくて主張しない”と思われがちであるが、日本女性の強さや主張がみえる作品を世界に送り出したい！

製作をしていくなかで、親世代との比較につながり、母と娘３世代に渡る映画へと成長しました。我謝監督のメッセージをぜひ受けとってください！

日時：平成26年3月1日(土)17:00～19:00
会場：生涯学習センター4階・中研修室
料金：500円(コーヒー・紅茶付)
定員：女性限定30名程度
申込：先着順／12月1日(日)受付開始
※小さいお子様がいらっしゃる方は、託児サービス(0歳から小学生3年生程度・1,000円／1人)をご利用ください。

フレンテメモ 「ジェンダー・ギャップ指数(GGI)」って?

スペシャル・エッセイ
Special Essey

vol.53から始まったスペシャル・エッセイ。執筆は「インパラの朝」などの著書で知られるノンフィクション作家、中村安希さんです。三重にも縁のある中村さんが世界中を旅する中で出会い感じた「女性の生き方」をテーマにお届けしてきましたが、いよいよ今回が最終回です！

連載

「世界を旅して、女性の生き方をみる」～第四回（最終回）～

ノンフィクション作家　中村　安希

前回、『社会進出する女性』の一例として東南アジアの女性を紹介した。今回は、中国やアフリカの女性たちを取り上げたい。

共産主義の中国では、女性の就業率が高い。これは、旧社会主義の国々でも同じことが言える。行政機関や工場、飲食店での業務はもちろん、自ら起業したり、会社の役員を務める人まで、幅広く活躍する女性の姿が目立つ。中国の女性たちと話してみると、彼女たちには『仕事か家庭か』という選択の概念がないことが分かる。働くのが当たり前だからだ。もっと言えば、私たちが考えるような『就職』という意識さえないように見える。職に就くかどうかの前に、『自分で稼ぐ』ことが前提にあり、ではお金を稼ぐために何をするか、と彼女たちは考える。

アフリカの女性も同じ。彼女たちは、本当によく働く。市場は商いをする女性たちで溢れ、スーツに身を包んだ女性たちが、街のオフィスや役所、あるいは学校や病院で日々の業務に当たっている。世界を見渡してみると、特別なのは働く女性ではなく、むしろ専業主婦であることが分かってくる。

高度経済成長を迎える前の日本の就労状況は、世界基準に近かったのではないかと思う。かつての日本において、女性が働くことは、先進的でも特別なことでもなかった。みんな農業をして、商いをして、子どもを育てて生きていた。

大都会のキャリアウーマンになる必要なんてない。仕事への見方を少し変え、ハードルを下げさえすれば、女性の社会進出は別段難しいことではないのだ。

中村 安希（なかむら あき）

ノンフィクション作家。

1979年京都府生まれ、三重県育ち。2003年、カリフォルニア大学アーバイン校、舞台芸術学部卒業。日本とアメリカで三年間の社会人生活をおくる。その後、二年間、47カ国をめぐる旅をもとに書いた『インパラの朝』（集英社）で09年、第七回開高健ノンフィクション賞を受賞。他に若き政治家たちへインタビューを試みた『Beフラット』（亜紀書房）、『食べる。』（集英社）、『愛と憎しみの豚』（集英社）がある。

今年も開催！

母子家庭等の女性のための パソコン講座

これから社会に出て就職し、経済的に自立を目指す女性を対象にパソコンの基礎操作を学ぶ講座です。

ワードを使った職務経歴書の作成や、エクセルを使った簡単な表計算が出来るまでの実践的プログラムです！面接で「ワード・エクセルができます」と言えるよう分かりやすく丁寧に指導します。社会参画に向けての一歩を一緒に踏み出しましょう。

【平日コース】1月23日（木）、24日（金）、28日（火）
【土日コース】1月25日（土）、26日（日）、2月1日（土）　各コース全3日間

時間：10:30～15:30
料金：無料
対象：母子家庭、生活保護受給者、
児童扶養手当受給者、
ひとり親家庭等医療費補助者等、
経済的に困難な状況にある女性で、
パソコン操作にあまり経験のない初心者。

申込：事前申込制・先着15名程度
託児：あり（無料・要予約・1歳6か月～小学3年生程度・1月9日締切）
場所：三重県総合文化センター内

働き続けたい女性のための 「パワーアップ・トレーニング」

家事・育児・介護など日々の生活と仕事の両立を図りたい、責任ある仕事を任されるようになってきたけれど自信がないなど、働く女性の悩みは尽きません。そんな女性たちへ生活と仕事のバランスとりながら、自信を持って仕事に望むことができるように実践的なプログラムをご用意しました。1日目は、女性の活躍を阻む社会構造を知り、働き方・生き方の「自分軸」を探します。2日目は、支配のテクニック（いじめの手口）を知り、その対策法やコミュニケーション術を学びます。3日目は、ちょっと先を走る先輩の話を聞いた後、効果的なプレゼン・スピーチのコツを学びます。社会参画に役立つ力を磨き、自分らしい生き方を考えるために、私だけのちょっと贅沢な時間を過ごしてみませんか。皆様のご参加をお待ちしています。

日程・時間：2／8、15、3／1（各土曜）10:30～12:30、13:30～15:30（3日間・全6回）
場　所：フレンテみえ2階　セミナー室A 他
講　師：中川和子さん（フェミニストカウンセリング堺　フェミニストカウンセラー）
受講料：7,500円（三重県内在住・在勤・在学以外の方は8,250円）
定　員：女性24名（先着順）
託　児：あり（1日500円／人　1歳6ヶ月～小学校3年生）

フレンテみえHPで「男女共同参画ゼミ」を掲載しています！
専門の方が身近な視点でわかりやすく解説しています。ぜひ読んでみてくださいね。

「シングルマザーをとりまく現状や課題」　大森　順子　さん
「～男らしさの縛りを解きほぐす～」　吉岡　俊介　さん
「気づこう！デートDV～自分と相手を大切にするために」　イダヒロユキ　さん

フレンテみえHP
http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/index.shtml

世界経済フォーラムが各国内の男女間の格差を数値化したもの。経済・教育・政治・保険の各分野を総合し、毎年ランキングが発表されます。2013年10月に発表された最新結果では、日本は136ヶ国中105位でした。前回（101位）よりも順位を下げており、先進国で最低水準となっています。

今回の特集は、フレンテが総力をあげて取り組んだ2大事業のリポートです！寒い季節ですが、フレンテで心もカラダもホットになってください！（by所長）

フレンテみえでは、平成24年度に三重県内で初めての大規模調査となる

「デートDVに関するアンケート調査」

を実施しました。その調査結果をシリーズでご紹介します。

［第3回］被害後の「相談」の実態について

調査では、デートDVの被害を受けたことがある人に、だれか（どこか）へ相談したかどうかを調べました。

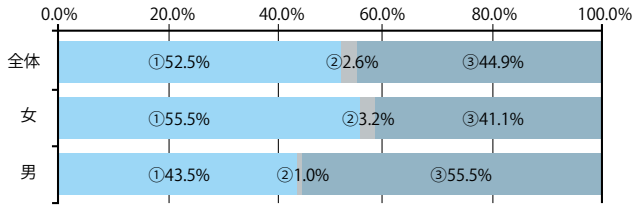
「相談」にみる男女の傾向の違い

全体では52.5%が「相談した」という結果が出ました。女性は55.6%の人が相談していますが、男性では43.5%と男女差があります。

また、「相談したいと思わなかった」と回答した人は男性（55.5%）、女性(41.1%)と、男性の方が相談につながりにくい傾向が考えられます。その背景に、「男性は弱音をはかないもの」「悩みがあっても、気軽に誰かに相談しない」という男らしさの固定観念に基づく意識が影響しているのではないでしょうか。

相談実施の有無　全体（N=795）　女性（N=586）　男性（N=209）

	全体	女	男
①相談した	52.5%	55.6%	43.5%
②相談したかったが、できなかった	2.6%	3.2%	1.0%
③相談したいと思わなかった	44.9%	41.1%	55.5%



約9割が「友人」に相談

「相談した」と回答した人の中で、相談先は「友人」が86.6%と最も高く、身近に安心して相談できる相手として、友人の存在が大きいことがわかりました。これは、当事者ではなくても、友人から相談される可能性が高いということを示しています。

相談後に懸念される二次被害

「相談した」と回答した人の中で、相談後の気持ちとして「自分が我慢するしかないと思った」「理解してもらえず余計に落ち込んだ」を合わせた割合が1割を超えています。

上記の結果から、デートDVは一部の問題でなく、若い世代全ての問題として正しく理解する必要があります。また、デートDVのことを正しく知り、相談にも適切に対応できるように学ぶことも不可欠です。

※本調査結果はフレンテみえホームページに掲載しています。

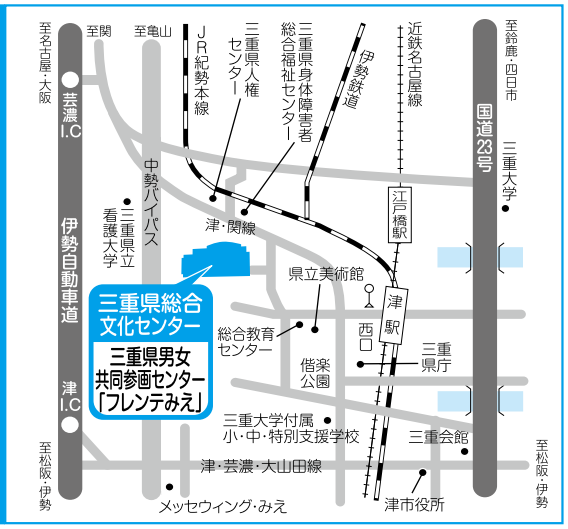
フレンテみえって、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として
津市の三重県総合文化センター内に平成６年オープン。
情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という
「５本の柱」で、様々な事業を展開しています。
ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ　検索

三重県男女共同参画センターまでのご案内



休館日　毎週月曜日
年末年始
（12月29日から1月3日まで）

交通
■バス／津駅西口１番のりばから約5分
■徒歩／津駅西口から約25分
■自家用車／伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台（無料）。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

生き方・家族・人間関係・からだ・離婚・職場　などなど・・・
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

☎ 女性のための電話相談　秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室　専用ダイヤル 059-233-1133

相談時間＼曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00～12:00	休館日※	●	●	●	●	●	●
昼 13:00～15:30		●	—	—	●	●	●
夜 17:00～19:00		—	—	●	—	—	—

※祝日の場合「朝・昼」相談あり（翌平日が休館日）

＊このほか、女性のための面接相談・法律相談、からだ相談と、男性のための電話相談を実施中
詳しくはお問合せください

フレンテみえ相談室のご案内
（切り取ってご利用ください）

〔年4回発行／次回 4 月発行予定〕

発行　MIE CENTER FOR THE ARTS 三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL：059-233-1130　FAX：059-233-1135
URL http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/
E-mail：frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。　Design：Graphica